



## 2009年上半期 京都主要繊維問屋動向調査

売上高 14.5%、仕入高 14.4%、在庫 6.5% 各減  
和装 3 業態は売り上げ 2 ケタ減で大苦戦

本紙月例調査による「京都主要繊維問屋 40 社売上動向調査」の今年上半期（1 月～6 月）がまとまった。売上高は前期比 14.5%、仕入高同 14.4%、在庫高（各月末平均）同 6.5%の各マイナスとなった。

上半期は、全体を通して各業態ともに売り上げは前年同月比マイナスで推移。特に和装 3 業態の売り上げの落ち込みが著しく、各 2 ケタ減となっている。業態別では、白生地卸は、昨年前半に糸価上昇、加工賃値上げの要因から売り上げがプラスで推移していたが、ことしはこの反動から 4 業態中最も大きく落ち込んだ。一方、染呉服製造卸は問屋の仕入れ抑制、委託比率の増加などから、染め出しが極端に減り、仕入れ抑制、在庫中心の商いを余儀なくされている。呉服卸は、N C や大手小売店等からの注文が年初から極端に減り、染呉服製造卸と同様、仕入れ抑制、委託増加、在庫の販売に終始。また、婦人服地卸は大手アパレルが数件倒産した影響でムードは萎縮、販売は総じて低調。寝具卸も一部企業で主力以外の商品が好調な動きが見せているが、限定的な伸びに止まっている。

月別推移では、1 月は白生地卸 35%、染呉服製造卸 24%、呉服卸 20%の各 2 ケタ減でスタート。2 月、和装 3 業態は引き続き売り上げ 2 ケタ減に加え、洋装・寝具も大手アパレル倒産（小杉産業ほか）と量販店不振の影響で 2 割近く売り上げを落とした。3 月も 2 月と同様の推移で、和洋装ともに売り上げは 2 ケタ減。仕入れ抑制と在庫を減らしに終始している。

4 月も和装は売り上げ低調。寝具で一部企業が昨年投入した新商品が好調だったことから売り上げはプラスをマーク。5 月、和装は引き続き低迷。洋装・寝具も売り上げダウン。6 月、和装は祇園祭向けの在庫備蓄がなく、白生地卸、呉服卸の売上高は各 2 ケタ減。寝具は、一部企業で再びプラスとし、同業他社の不振をカバーした。

摘 要	売上高	仕入高	在庫高
白 生 地 卸	27.9	25.8	6.7
染 呉 服 製 造 卸	18.0	22.6	3.0
呉 服 卸	17.6	19.3	9.5
婦 人 服 地 ・ 寝 具 卸	8.1	2.0	4.3
総 平 均	14.5	14.4	6.5

前年同期比減少（ ）率%